

北海道科学大学
教学 IR に関する活動報告書

2023 年 10 月

北海道科学大学の教学 IR に関する年次活動報告書

この報告書は、北海道科学大学（以下本学）の教学 IR 活動の概要を自己点検 IR 委員会でまとめたものです。本学の教学 IR 活動に関する報告書としては、昨年（2022 年）度に近年に本学で行った主要な教学 IR 活動の内容を総合的にまとめた報告書を初めて作成し、学外公開しております。2023 年度版となる本報告書は、教学 IR 活動の年次報告書という位置づけで作成されており、主に昨年度版のからの更新・変更点を報告するものになります。従前から継続している教学 IR 活動に関しては、[2022 年度版の報告書](#) をぜひご参照下さい。

1. 自己点検 IR 委員会の業務と本学の教学 IR 活動について

自己点検 IR 委員会は、本学の内部質保証の責任を負う自己点検・評価委員会（委員長は学長）の下部組織であり、自己点検・評価委員会の求めに応じ、自己点検・評価のための情報収集、整理を支援するとともに、教学 IR 活動を行う委員会です。

【自己点検 IR 委員会の活動方針】

本学の内部質保証の方針 (<https://www.hus.ac.jp/about/project/evaluation/>) に則り、内部質保証に関する活動や自己点検・評価委員会の活動をサポートする役割を担います。

本学の教学 IR は分散型の IR であり、自己点検 IR 委員会の業務は大学全体の教学 IR 活動の一部といえます。自己点検 IR 委員会では、学内各部署で作成された教学に関するデータのうち、本学のアセスメント・ポリシーで定められた 3 ポリシーを起点とする学修成果、教育成果の点検に係るデータについて、集約し分析を行うとともに、大学全体及び各学部学科が行う点検向け資料として整理し配信しています。

※本学のアセスメント・ポリシー (<https://www.hus.ac.jp/about/info/assessment-policy/>)

【2023 年度の活動計画（教学 IR に関連する内容）】

- ① 学修成果の評価とその可視化（中期事業計画「アセスメント・ポリシーの実質化」）
 - 学修ポートフォリオの整備
 - PEPA タイプ評価の導入、FD 企画
 - 長期ルーブリックの活用
 - 外部試験（PROG 継続等）の検討
 - 大学院内部質保証に向けた整備
- ② 質保証について、組織内の理解を促し、組織文化として定着を図る
 - 教学マネジメント指針の浸透
- ③ 活動報告作成公開、IR に関する研修会主催
- ④ 機関別認証評価受審後の対応

自己点検評価レポート作成、自己点検評価・外部評価の内容・実施方法の検討

2. 教学 IR に関連する活動

表 1 自己点検 IR 委員会の教学 IR に関連する活動スケジュール

時期	活動	連携部署
3 月末～4 月	教育目的達成度調査	
5 月（～10 月）	PROG（1 年生、3・4 年生）	就職支援 C
5 月	大学 IR コンソーシアム大学データ・学生データ登録	
6 月（～7 月）	PF 個別面談（学修成果について）	学生支援 C
7 月（～9 月）	卒業生調査、企業調査、産業界との協議	就職支援 C
7 月（～9 月）	学科教育自己点検会議（3 ポリシーとカリキュラム）	
7 月	教学関連データの集約と配信	学生支援 C、 FD 委員会
9 月（～11 月）	学生生活調査（大学 IR コンソーシアム学生調査）	学生支援 C
12 月	学科教育自己点検会議（シラバス点検）	
12 月（～3 月）	卒業時調査	
2 月又は 3 月	学科長による総括報告会	
2 月	大学 IR コンソーシアム大学学生調査データ登録	

2022 年～2023 年にかけても、上記のスケジュールの通りに、本学の学修成果や教育効果の評価を行う際に活用する学生調査や外部試験等を実施しています。各学生調査や外部試験の概要については、[2022 年度版の報告書](#) をご参照下さい。さらに、学科教育自己点検会議向け資料の学科への提供など、教学 IR に関する分析と学内部局への情報配信を行っています。本報告書及び昨年度の報告書で取り上げなかった集計結果等については、本学ホームページの「[情報公開：教育の質に係る客観的指標](#)」にて公開していますのでこちらで確認下さい。

3. 教学 IR データを用いたモニタリングと分析例

ここでは、2022 年～2023 年にかけて、自己点検 IR 委員会が行った教学 IR に関する分析や、学内部局への情報配信の事例のうち、2022 年度版に含まれない事例を紹介します。

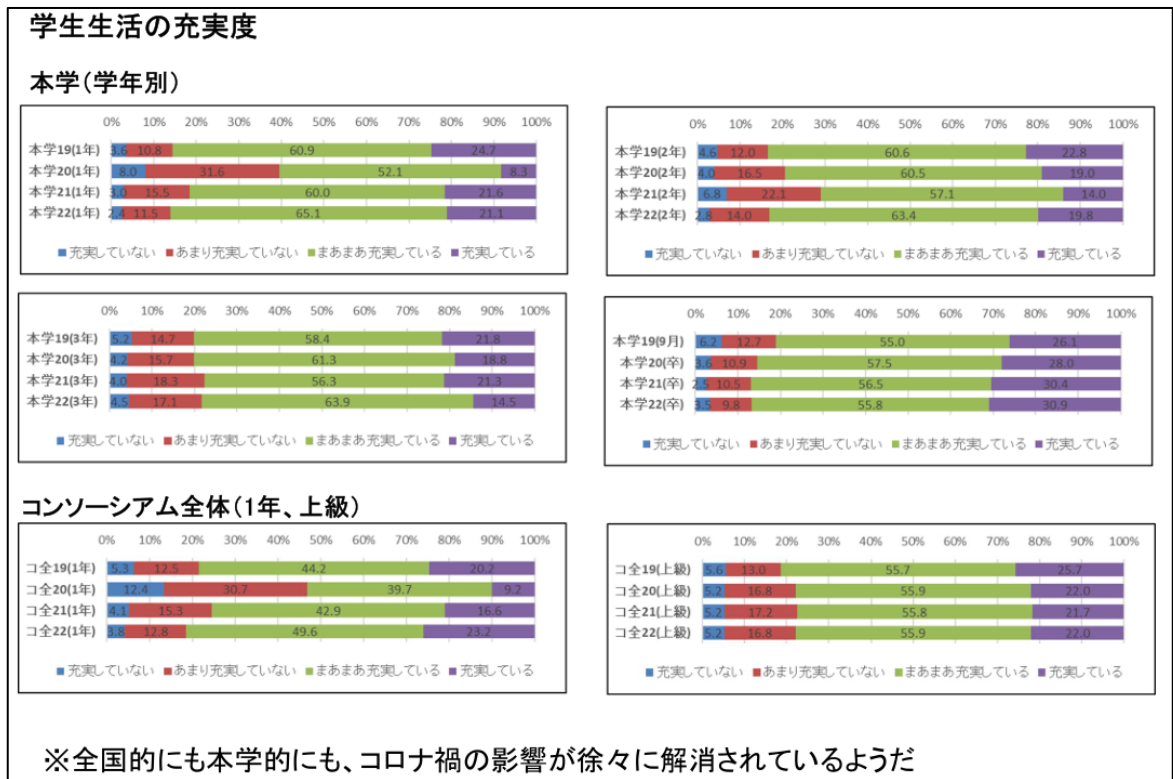
3.1. 大学 IR コンソーシアム（学生生活・卒業時）調査（2018 年度～2022 年度の比較）

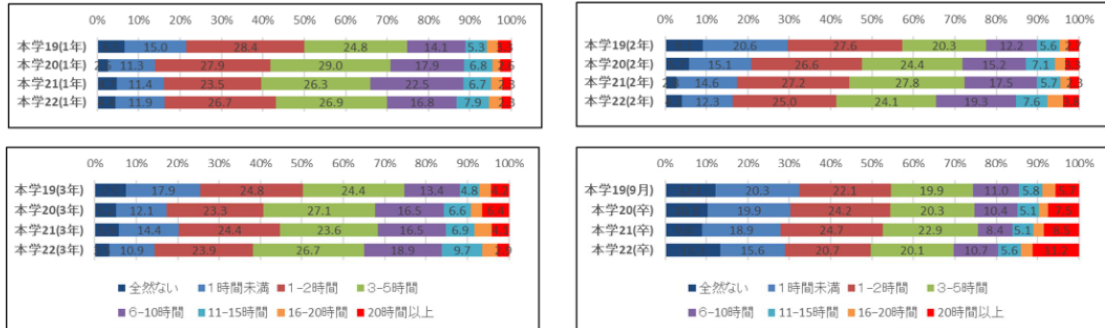
本学は 2014 年より大学 IR コンソーシアム (<https://irnw.jp/>) に加盟しており、その学生調査結果を学生の満足度や能力伸長に関するモニタリングに活用しています。2023 年度

に行った主な分析は次の通りです。

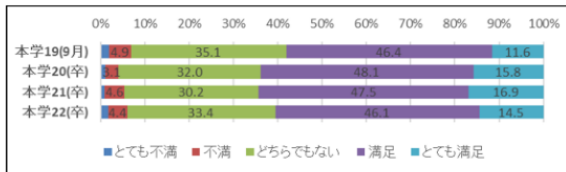
- ・ 回答率：上昇傾向、年度、学年により差（2022年度卒業時調査は高い）
- ・ コロナ禍の影響の大きい学年⇒解消しつつある（2020年度1年【全学】、3年【保健】）
- ・ 「充実度」上昇傾向、1年次・卒年次が少し高い
- ・ 「全体的な教育の質」学部間の差は解消傾向
- ・ 「設備支援制度」全体的に高く横這い（減少傾向の可能性あり）
- ・ 「授業外学修時間」ほぼ横ばい、薬学部の卒業時で上昇
- ・ 「教員との面談時間」減少傾向、「個人趣味の時間」上昇傾向
- ・ 「能力変化（語学、文章、プレゼンテーション、多様性など）」2024年度以降を要確認

図1 集計結果の比較例 1



週あたりの活動時間: 授業時間以外に、授業課題や準備学習、復習をする


※学部については保薬工未の順に短くなっていく
 ※コンソーシアムで分野別比較をすると、保薬でも工でも本学の方が若干時間が短い

大学教育への満足度: 教員と話をする機会


※満足度は変化があまりないようだ

図2 集計結果の比較例2

3.2. 共通長期ルーブリック案の策定とチューニング

本学では、アセスメント・ポリシーにおいて、学生を対象とする評価として、長期ルーブリックを用いた形成的に学修成果の評価を行うと定めています。しかし、2018年に長期ルーブリックの雛形を策定したものの実際には運用に至っていないため、2024年からの新ポリシー・新カリキュラム始動を見据えて、中期事業計画「アセスメント・ポリシーの実質化」の一環として、2021年度より大学全体の共通長期ルーブリックの検討を自己点検IR委員会にて行っており、2022年度に本委員会にて共通長期ルーブリック案を策定しました。ルーブリックは運用しながらその評価内容や水準を改善していくことが多いのですが、案策定後に委員会内から、本学学生の実情に合わせて文言や水準を調整した方がよいのではないか、という意見が出されたため、実際の運用の前に学生調査においてこの共通長期ルーブリックを用いた学生の自己評価を試行し、その結果をもとに共通長期ルーブリック案のチューニングを行うこととしました。

既に実施している「教育目的達成度調査」では、学生は自学科のDPの内容を読みその達成度合いを5段階で自己評価していますが、2023年度調査では併せてDPの中項目の資質・

能力に関する共通長期ルーブリックに沿ってその時点での自身の能力・資質がルーブリックのどの水準にあるかを自己評価してもらいました。ここでは一例として、中項目[日本語力]の共通長期ルーブリック案と、対応するある学科の調査結果を紹介します。

表 2 共通長期ルーブリック案

中項目	マイルストーン			
	キャップストーン LV4	LV3	LV2	ベンチマーク LV1
【日本語力】	・構文・文法、用語法の誤りがなく、必要な情報を理解し、まとめ、目的に応じた適切な方法で明快に表現することができている。 ・背景と目的に関連した内容を用い、論理的な展開によって、説得力のある主張や結論を伝える発表ができる。	・構文・文法、用語法の誤りがほとんどなく、必要な情報を理解し、まとめ、目的に応じた適切な方法で正確に表現することができている。 ・背景と目的に関連した内容を用い、相手に主張や結論を伝える発表ができる。	・構文・文法、用語法の誤りが見られるものの、必要な情報を理解し、まとめ、目的に応じた適切な方法で表現することがある程度できている。 ・背景や目的に関連した内容を用い、相手に主張や結論の一部を伝えることができる。	・構文・文法、用語法の誤りが見られるものの、必要な情報を理解し、まとめ、目的に応じた適切な方法で表現することが最低限できている。 ・背景や目的に関連した内容と結果を相手に伝えることができる。

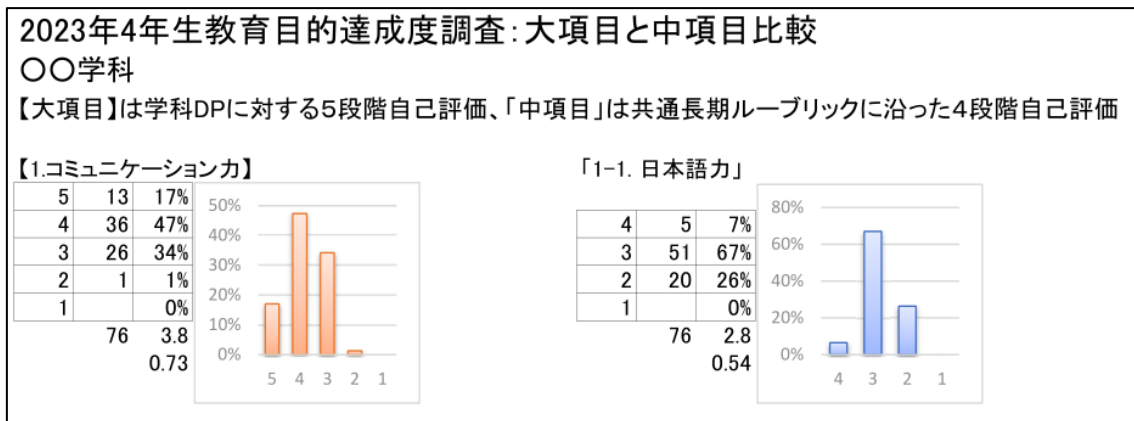


図 3 調査結果

この結果をもとに、現在共通長期ルーブリック案のチューニングの検討を行っており、2023 年度末に共通長期ルーブリック案を完成させ、翌年度からの運用を開始する計画になっています。

4. まとめと今後に向けて

この報告書では、本学の教学 IR 活動の概要として、2022 年～2023 年にかけて行われた自己点検 IR 委員会による教学 IR 活動を報告しました。

本学の教学 IR 活動の高度化と更なる充実に向けて、今後は次の点に取り組む予定です。

- ・ アセスメント・ポリシーの実質化（専攻分野固有のコンピテンシーや学修成果を直接評価する情報の整理と可視化）
- ・ データの収集・整理・加工・配信・閲覧のシステム化及び web 化（試験的なデータベースの構築、資料作成のシステム化、配信の web 及び BI ツールの活用、学科教学 IR ポー

- トフォリオや科目コースポートフォリオの実現)
- ・ 分析対象の拡大（学籍異動学生の分析、エンロールメント・マネジメント IR、在学中に能力伸長した学生の分析、卒後活躍している人材の分析）
 - ・ 教育に関する内部質保証の考え方の教職員への浸透と、IR に関する専門人材・後継人材の育成
 - ・ 内部質保証の機能化に向けた IR の高度化（財務 IR との連携強化、大学運営に関する自己点検・評価活動との連携）

以上